

示差走査熱量測定 (Differential Scanning Calorimetry) は、試料と参照物質を加熱あるいは冷却するのですが、両者の温度が等しくなるようにします。そのために必要なエネルギーを温度又は時間に対して記録する方法です。従って、試料から放出あるいは試料に吸収される熱量 (エンタルピー) の測定に適しています。

比熱、反応熱あるいは転移熱等の定量に用いられます。また、結晶化度、反応速度あるいは結晶化速度等の測定に応用できます。また、利用できる物質に制約はありますが、融点降下現象を利用して物質の純度を決定するためにも用いられています。

特に、高分子物質の分野で広く利用されています。

